

「(衆僧を) 供養す、故に……」

ぶつげ もとよ ちじ とも ぶつした とも ぶつじ な なかんづく てんぞ
仏家に本従り六知事有り、共に仏子為りて、同に仏事を作す。就中、典座
の 一職は、是れ衆僧の弁食を 掌る。『禅苑清規』に云う、「衆僧を
供養す、故に典座有り」と。古え従り道心の師僧、発心の高士、充てら
れ来りし 職なり。蓋し一色の弁道に猶る。若し道心無くば、徒に
辛苦に勞して、畢竟益無きなり。

(典座教訓 講談社学術文庫 p118)

だいそうこく しょうざんしょうじ こと ちじ ちようしゆ
大宋国の諸山諸寺を見るが如きは、知事・頭首の、職に居るの族は、
いちねん しょうごん な いえど おのおのさんばん じゅうじ せん とき あずか
一年の精勤を為すと 雖も、各々三般の住持を存し、時に与り
て之を 営み、縁を競いて之に 励む。

すで も た り ま じり ゆた
已に如し他を利し、兼た自利を豊かにせば、
そうせき いっこう こうかく いっしん
叢席を一興し、高格を一新し、
かた ひと こうべ きそ あと つ あと かさ
肩を齊しくし、頭を競い、蹟を継ぎ、蹤を重ぬ。

(典座教訓 講談社学術文庫 p115)